



月報

# 岡崎の教育

2月号

昭和58年2月1日

編集/発行

岡崎市教育委員会

ぼくがすべる  
からだもうごく  
手もうごく  
まるで  
ぼくだけの世界にいるようだ  
でも  
あつというまにおわってしま  
ゆめのような時間だ



(落ち葉スキー — 恵田小)

## —教育随想—

## 誇る罪

鈴木 拓郎

歴史の古い学校であればあるほど、校歌や校訓や式辞の中に「誇り」の語が幅をきかせる。教育の一過程で誇りがあらわす効能を、私は必ずしも否定しないが、効能あれば、副作用あり。両刃の剣である道理は葉と変わるまい。

名詮自性というとおり、そのことを誇りということば自体が語っている。岩波の古語辞典によると、ほこり、とは（ホ（秀）オコリ（起）の約か。すぐれたものとして人目に立つように活動し行動する意。類義語オゴリは、自分は低い所にいるものとは違うのだと思ひ込んで、それらしく行動する意）得意になる。いい気になってはやる。……とある。この語意・語感には、オゴリと同罪の鼻もちならぬ自信過剰を、苦々しく批判する冷やかさがはつきりうかがえる。

誇りは所詮あさましい優越感の所産に



すぎない、という思いを、日本人はこの語に吹き込んだのである。その思いは、とりわけ室町以降、昭和の初めまで、「道」の名と「礼」の形において厳しく伝えられて来た。慢心を戒め謙虚な精進を旨とする求道の世界では、「勝ち誇る」などもつてのほかとされた。

ところが、今はどうか。甲子園でもラグビー場でも武道館でも、Vサイン・ガッツポーズのはんらんである。ついには柔「道」よ、お前もか！という有様になった。ヤッター！ドンナモンダ！と躍り上がる連中は、敗者・弱者へのいたわりも知らない。あすはわが身と、時の運に帰するゆかしさもない。勝敗そのものの空しさや、争うことの愚かさに思い至ることなどないであろう。あつたら、この世界で食っていくことはできない。

たかがゲーム。そんな目くじら立てず

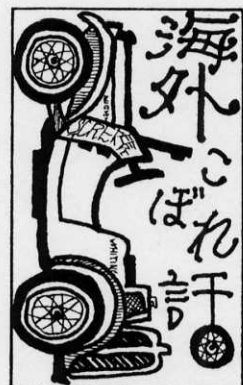
ともと笑う大人もいる。が、当の本人たちは「たかがゲーム」などとは決して思っていない。そういう闘争人口と野次馬人口が多すぎる昨今、「たかが」と油断しているいいか、という慮れががすめる。無論ことはスポーツに限らない。一事が万事。およそ誇る者の冠はいくら輝いても、比べ、競い、争い、戦う敵意の角を隠したい。光にくらんで自分に見えないだけの話である。

要するに誇りは玉手箱のようなもので、開けたら醜悪な自分をさらすのみ。そのくせ開きたい誘惑にかられる持ち物である。となると、誇りを持つこと自体、疑問ではないか。いや、そもそも人間のすることで誇るに足るものがあり得るのか。体であれ、頭であれ、顔であれ、手足であれ、いかにすぐれたものであるにせよ、自力で得たといえるのか。「競争の原理」が支配する教育も、現実を生きている中で、「共存の原理」に生きようとする「特殊」教育。そこに職を奉ずる幸いを得て、今しじみ顧みるのは、一九二八年前パウロが靈感によって記したという手紙の一節である。

だれが人を他と異ならせるのですか。自分にあるもので、もらったものではないものがあるのですか。たしかにもらったのであれば、どうしてもらったのではないのかのように「誇る」のですか。

〔コリント一・4―7〕

（県立岡崎養護学校長）



ニューヨークでの一夜

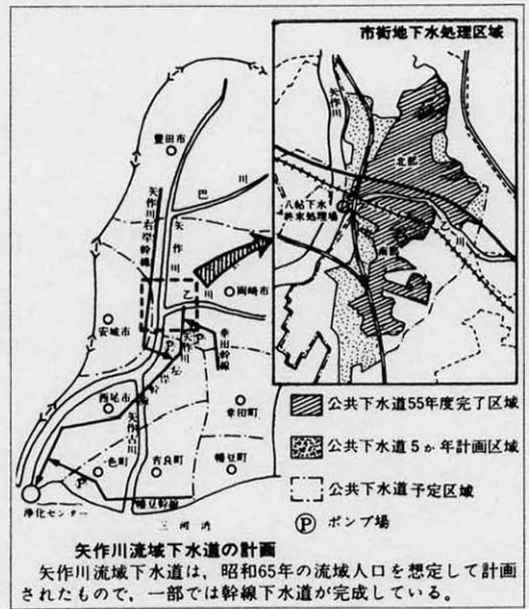
杉浦 正明

「切手百枚ください。」  
「この切手はこの郵便局のポストでしか使えませんよ。」

げげんそんな目つきで私を見ながら言う。国連ビルの地下の一角にある切手販売所でのこと。ホテルから歩いて十五分の距離にある国連本部を訪れた。ついさきほどニューヨークに着いたばかりだ。身振り手振りで会話ならぬ体話を開始。二人の職員を相手にすること数分。意志が通じたのか、笑顔で分けてくれた。おまけに、帰りには、二千円近くもする本家でプレゼントを受けた。

さて、それからが大変。夕食をすませた九時すぎから葉書の山を前に戦闘開始。子どもたちへの第一報を国連切手ははって届けたい。何としても明朝までに書かなくては、あのポストに投函する機会がない。夜更けまで窓外の喧騒と絶え間なく聞こえるサイレンの音を聞きつつ、必死でペンを走らせること数時間。

高層ビルの谷間で迎えたニューヨーク



—ふるさとの山河— 矢作川 (11)

水質保全

最近、河川の浄化が叫ばれ、各地で清流が復活したニュースが聞かれる。  
 矢作川流域では、すでに昭和四十四年九月、「矢作川沿岸水質保全対策協議会」(矢水協)が、明治用水を始めとする矢作川流域の農漁民を中心に結成され、宅地開発等による汚濁水で稲や養殖のりがいためられるのに対して、「川を守れ」と監視・摘発・啓発を続けている。  
 また、支流では、「乙川を美しくする会」や「伊賀川を美しくする会」などの住民運動も起こっている。

矢作川の米津大橋下の水質検査で、BOD(生物化学的酸素要求量)・SS(浮遊物質)ともに、環境基準に合うようになったのは、昭和五十年からである。しかし、岡崎市公害調査センター・公害交通課の調査によると、生活排水の河川汚濁が目立ちはじめたという。市では、無公害の「天然石鹼普及都市宣言」をし、また、公害防止条例に基づき、五十七工場、五住宅団地と協定を結んで、その監視と指導にあたっている。  
 岡崎市の下水は図に示したように、人口集中地域のうち、乙川以北は八帖下水終末処理場で、乙川以南は矢作川流域下水道で処理される。しかし、乙川以南は、まだ完成していない。  
 下水は、河川へ流される。中・下流域では、飲料水としても使用されるだけに、河川汚濁は死活問題である。  
 矢作川流域下水道計画は、こうした問題を解決し、処理を統一して二次公害を防止し、市町村の負担を少なくするため

に県が計画を立て推進しているが、完成までには、まだ相当の年月が必要である。そこで、矢水協の人たちが中心となって、「自分たちの生活排水は、自分たちの手できれいにしよう」と生まれたのが、維持費も安く、一戸でも大団地でも採用できる独創的な「矢作川方式」といわれる「石濾過法」である。  
 その仕組みは、川石を段々に積んだタンクの中へ二次処理した排水を自然流下させる。川石のまわりに付着した苔と微生物が「生物膜」となって、有機物を酸化・分解・沈殿させ、きれいな放流水にする。最後に塩素消毒された水は、洗濯、散水に使えるという。この石濾過法は、流域の団地やホテル、学校など三十箇所以上も採り入れられている。住民の知恵で排水を浄化しているのである。「流域は一つ、運命共同体」という意味を今一度かみしめたいものである。  
 (矢作中・加藤富雄)



の朝は、殊のほかさわやかであった。切手をはった葉書の束を、昨日の窓口で渡した時、再び交わしたあの固い握手は忘れることができない。  
 (竜美丘小)

懐かしい失敗

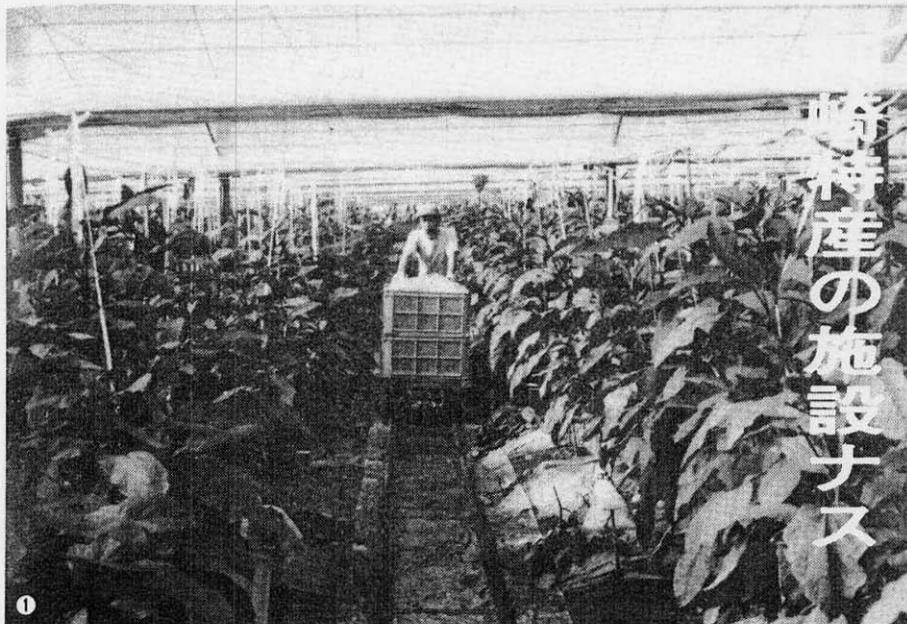
山中淳子

ヨーロッパ旅行で心に残っているのは失敗したことがばかり。  
 イギリス—セント・ポール大寺院の頂上まで行ける螺旋階段。登っても、登っても、頂上には着かず、引き返すこともできない一方通行。その結果、集合時刻に遅刻してしまった始末です。登る前に、何分ぐらいかかるのか、勇気をだして聞いておけばよかったです。  
 フランス—シュノンソー城の絨毯の敷いてある階段で、足をすべらせて落ちそうに。でも、まわりにいた人たちが一斉に手を差し延べてくれたんです。思わず出たことばが「ありがとう」…「メルスイー」と言えなかったのが恥ずかしい。  
 スイス—ツアーの女性ほぼ全員がなつてしまった食中毒。フランス語しか話せないお医者さん。サイダーで飲んだ大きな解熱剤。添乗員さんが買ってきてくれたおかゆ・梅干し・塩ぎけ。一番行きかけたパニスに行けずに、ホテルで寝ていた二日間。それでも、どんな楽しかった思い出よりも、こんな失敗の方が懐かしく思えて、思い出すたびに、ひとりです。  
 (葵中)



# 岡崎再見

40



## 特産の施設ナシ

◆西三河促成ナスの中心・岡崎  
西三河地域のナスは、名古屋中央卸売市場において年四十パーセント近くの入荷割合を占めており、県下最大の特産地を形成している。

岡崎・幸田・西尾・三好に広がり、共選・共販・共同計算体制が整う西三河促成ナス部会の会員は百三十六名。うち九十二名が葵・矢作・六ツ美の三つの農協に所属する岡崎の会員である。

◆一本の苗から二百個のナス

葵農協ナス部会の部会長をしている大樹寺の市川敬司さんの家では、施設園芸を手掛けて二十八年、今は約四十アールのハウスを奥さんと息子さんの三人で経営している。

一アールあたりの目標収量は一、四トンである。一本の苗から約二百個のナスが収穫されるという。市川さんのハウスには約五千本の苗があるから、年間百万個の生産高であり、まさに「ナスの工場」である。

◆油障子から始まった施設園芸

ハウスでのナス栽培が始まったのは昭和三十三年前後、市川さんのお話によると、その頃のハウスは油障子でつくられており、出荷も個人のばら売りであったため、朝は二時、三時に起きては名古屋市場に通っていたという。

◆適正規模は夫婦二人で三十アール

経営者の中には近くの主婦をパートで雇用することもあるが、一般会社のパート待遇には太刀打ちできないという。そんな理由から、経営規模拡大は家族内労働の範囲内で考えられる。

◆秀品率八十パーセントをめざして

施設ナスもまた品質が優先され、大きさは3L・2L・L・M・S・2Sの六段階、質は秀・優・良・並の四段階に選別される。経営者は秀品率八

十パーセントの生産をめざして工夫と努力を重ねる。

◆結実のためのホルモン処理

開花の始まる十一月から一花ごとに、霧吹きによる結実のためのホルモン処理が行われる。一本の樹から二枝を伸ばし、一枝に百個を順に結実させる。一つの無駄花が生じると、前後の実やつばみに影響を与えて成長のリズムをくずし、収穫量を下げる。

◆暖房費節約

最大出費は暖房用重油代で、支出の二十五パーセントを占める。室温較差を努めて少なくするため夕方・夜間・早朝・昼間ときめ細かに自動温度調節が行われる。夜間の室温保持のため、ハウス内にさらに二重のビニル張りが行われる。昼間は日光を最大に摂取するため、開閉式のものが多利用されるようになった。こうして、重油代を五十パーセント節約できるようになり、生産コスト低下に大きく貢献した。

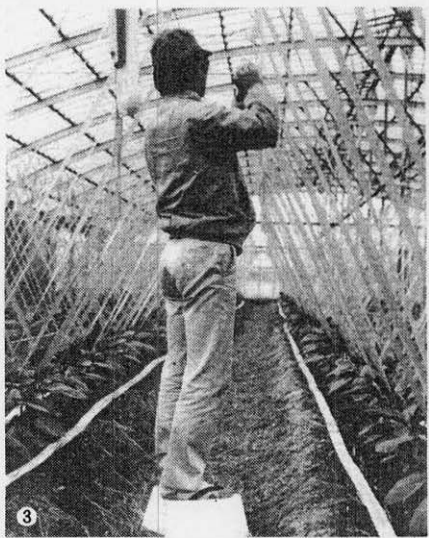
◆一段と前進する早期栽培

播種・定植時期を早めれば十一月からの出荷が見込まれる。五十七年産では、播種期を十日早める試みが行われた。したがって、定植は十五日ほど早まる。結果的には、定植時が台風シーズンとなる。自然との賭である。ビニルハウスからより強度の高いアクリルハウスへと、施設改善が今後の問題となる。

◆生産組織の強化

西三河促成ナスの販路は中京市場が大半を占め、尾張部のナスと競合関係にあり、かつ、岡山・高知・福岡県産にも食いこまれている。安定供給による販路拡張のためには、尾張部を含めた愛知県ナスとして組織を統合強化することが急務である。





- ① 収穫 露地栽培のナスを見慣れた目には怪物かと驚かされるナスの太木。栽培条件の整備で二メートル近くにも成長する。ハウスも大型化し、間口七・二メートルの施設が六十パーセントを占める。
- ② 土壌管理 連作をきらうナスだけに土壌管理は苦心がいる。露地ナスが出まわるころ、ハウスでは消毒、耕起碎土、施肥と忙しい。
- ③ 誘引 定植したナス一本ごとに、ビニルひもを天井から釣って、枝をV字形に仕立てる。採光、風通し、作業能率からきた工夫という。
- ④ 単花ホルモン処理 花がつくと一花ごとに植物成長調整剤を霧吹きで吹きつけるから、市川さんのハウスでは約十四万回ということになる。経営者ごとに液に色をつけて忘れないような工夫をしている。
- ⑤ 保温ビニル ハウス施設もオートメ化が進んできた。サーモスタットでスライド式に開閉される二層式天井。重油代の節約にも役立っている。
- ⑥ 都市化の波 ハウス周辺の都市化は年ごとに進み、施設農業は農産物工場の親を呈してきている。農業後継者の減少も大きな課題となってきた。

6	5	4	3	2	1	12	11	10	9	8	7	月	
〈収 穫 期〉						〈成 育 期〉						施設ナスの栽培暦 主な作業	
収穫終わり	暖房終わり	カーテン除去	誘引(U字仕立て)	ホルモン剤全面処理	側枝整理 分岐点から上3分の側枝を切り取る	収穫始め	暖房始め	単花ホルモン処理	誘引(V字仕立て)	定植 2/10本 株間四五センチ 10アールあたり 二〇〇本	鉢上げ		接ぎ木(割つき)
3000	3000	3000	2400	1200	1200	300	10アールあたりの収量(kg)						

## もちつき大会

三島小 安杖 康則

十二月二十六日、午前八時。まだ暖の入っていない職員室に電話のベルが鳴り響いた。昨日の夜半から降り始めた小雨のため、もちつきができるかどうかを確認する電話だった。

雨男といわれながらも、かつて一度も降らしたことのなかった私も、ついに降らせてしまった。残念無念。くやしがついてるところへ、残り三人の先生も不安気な顔で入ってきた。雨が強くなったら、という心配もあったが、学年主任M先生の、「延ばせんだろう。やるまい。」という一言で決まった。

十時ごろには、応援のお父さんやお母さんを含め、約一三〇名が集まった。児童会長が、寒さと緊張のためか、やや上ずった声で開会の言葉を述べ、もちつき大会の幕が開いた。雨を避けるため、渡りの軒下に備えられたかまどに火が入った。シュンシュンたぎる湯を見ては、「はやくつきたいなあ。」

「先生、手返しやらせてね。」と、子供たちがさわぎだてる。給食室の大きき火が入り、

## 教育日々



甘酒の準備が整ったころ、招待していた米山寮の子たち十三人が到着した。さっそく交歓会が始まり、手づくりのペンダントや誕生カードを贈るとともに、歌の交歓などで楽しい一時を過ごした。

そうこうしているうちに、いろいろな湯気が立ち上り、もちつき準備が完了した。ペツタン、ガツン、ベツタンコと、慣れぬ手つきで石うすばかり叩



くので、ついには木屑入りのもちまで完成した。

「味がついてちょうどいいや。」とは、誰の負け惜しみだったか。小雨で冷えた体を甘酒で暖め、またもちをつく。つきたてのものは、すぐ子供たちの腹の中へと。ついて、食べて、飲んで、という忙しいありさだった。

うす運びで筋肉痛を起こすなど、準備には苦勞させられたが、無事終えてみると、なんとも言えないすがすがしい充実感に包まれていた。

卒業を控え、六年生の楽しい思い出を、児童、寮生、父母、教師等で分かち合えたことに、日ごろの学校行事にはない意義を見い出せたように思えた。

## 髪の毛長い駄目

山中小 高橋 幹枝

「先生、〇〇ちゃん毛を切ってきたよ。」

「ぼくも……」

「私も……」

と、坊主頭やおかつぱ頭が保健室の窓からいくつも並びます。「わあ、とつても似合うよ。先生もその頭、大好きだな。」

そのたびに一人一人の頭をなでながら言うのですから大変で

す。

シラミ騒動から一年、私が朝礼台に立つ回数もふえて、子供たちの反応が手にとるように分かるようになりました。学級担任の先生方と違い、子供たちに話をする機会は少ないので、この時とばかりに声を張り上げるのです。そして、この騒動を境に子供たちの髪型も、最少限ですが統一されましたし、長めの髪の子にはそれなりに注意をする機会もできました。

先日A子のお母さんが、次のような話をしてくださいました。騒動以前の彼女の髪は長く、シャンブーも言われないと出来なかつたそうです。それが一転して、髪は短くするし、シャンブーも日を決めて自分からやるようになったとのこと。一つのきっかけが、A子の意識を変えることになったのです。

騒動の内容こそお粗末ですが、自分の身体の清潔がいかに大切かを自覚してくれた喜びが胸をうち、私の励ましになったことは言うまでもありません。

学級で調べていただいている身だしなみカードを見てみると、シャンブーができない児童、髪の毛をとかしていない児童も目立ち、根気よく繰り返し指導す



ることが、いかに大切か思われます。

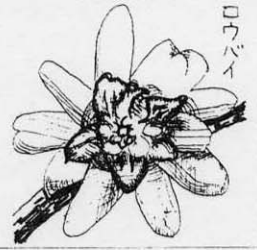
「シャンブーも週一回を週三回するんだと言つて聞き入れてくれません。」

「坊ちゃん刈りなのに、髪をとかしていくと言つて……」

と訴える保護者も出る始末。だが、せっかく子供なりにやる気を起こしているのだからと、保護者の固定観念を一方的に押し付けられないようお願いしているところですよ。

時々起きる問題と、それへの対処の仕方を累積し検討を加えながら先を見通した指導を進めることと、子供たちに自分の健康を自分で保持するよう良い習慣をつけさせることに努めてゆきたいと思つています。

ロウバイ



# 小中学校に図書への寄贈

## 岡崎市出身の稲垣正明さんより

岡崎市出身の稲垣正明さん（熱海市在住）より、このほど、市内小中学校一校当たり一〇万円、計五三〇万円相当の図書が寄贈された。

稲垣さんは、明治二十九年岡崎市島坂町に生まれ、郷里の小学校を卒業すると同時に青雲の志を樹て上京された。大正九年に日本で最初の紙の専門業界誌月刊「紙業世界」を創刊。昭和八年に日刊紙業日日新聞を発行し、昭和四十三年には紙業日日新聞社会長となられ、現在に至っている。

稲垣さんの温かい志を受け、市内小中学校に「稲垣図書」の名称で、次代をになう子どもたちにふさわしい図書が備えられ

### 【寄贈刊行物・資料等】

- ◆機器利用英語教育発表会要項 矢作北中学校 B5 六〇ページ
- ◆機器利用英語教育研究―授業実践記録― 英語部会 B4
- ◆今週の読書―三〇〇号記念特

### 集一 今週の読書の会

- A5 一二八ページ
- ◆ゆとりある岡崎の教育をめざして―岡崎の教育白書― 小中学校教員組合 B5 四四ページ
- ◆うめぞの子ども詩集 梅園小 変型B5 一一一ページ

### ◆第十六回愛知県教育研究論文

- ▽最優秀賞 「豊かな読みを求めて―音読を中心とした授業の実践―」 常盤小学校 松井伸市
- ▽優秀賞 「子どもの個性的成長をはかる社会科の授業―実感的なわからせ方を求める授業構成を通して―」 細川小学校 平野有行
- ▽佳作 水野昌孝（城南小） 神尾昌彦（広幡小） 早川円淨（常盤中） 野々山周次郎（六名小） 加藤由美子（六名小） 根石小学校緑化推進委員会、本宿小学校交流教育推進部、岡崎市特殊教育部、

### ◆第十回県自作T P 作品

- ▽特選 蒲野洋二（細川小） 伊藤友隆（大樹寺小）
- ▽入選 小池剛（矢北小） 石原康子（

### ◆私のアイデア貯金箱 全国コンクール

- ▽佳作 十三名、
- 岡崎市小中学校書きぞめ展が一月十九日〜二十三日の五日間市美術館で行われた。優秀作品二、一九七点の中から二五点が奨励賞を受けた。
- 郵便局長賞 井田小学校三年 島井政希

- 図書の選定は、現職教育委員会図書館部があたり、
  - ①児童・生徒用であること
  - ②造本がしっかりしていて堅ろうであること
  - ③つとめて、シリーズまたは「副本」をそろえること
- を基準に、候補図書が示された。各学校は、この候補図書から自由に選択購入し、「稲垣図書」専用ラベルを貼付して整理される予定である。

### ■教育研究論文の応募状況

昭和五十七年度の岡崎市教育研究論文に四三六点の応募があった。内訳は次の通り。

### ●小学校（三一八点）

校名	主 題	予定日
香山中	気づき考え実行する生徒の育成	5 / 10
連尺小	見つめ見ぬく力を育てる学習指導	6 / 8
岩津中	心のふれあいを深める教育活動	6 / 21
藤川小	自ら学ぶふりの育成	9 / 21
葵 中	自律と感動の教育	9 / 28
緑丘小	感動ある授業の創造	10 / 7
梅園小	自ら学ぶ力を育てる	10 / 18
細川小	自ら調べ磨き合い生きる学習の建設	10 / 26
矢北中	教育機器を利用した指導計画の作成と指導法の工夫	11 / 8
大門小	板書を重視した授業の展開	11 / 11
福岡小	子どもらしい生き生きとした表現のある学習をめざす	11 / 25

### 昭和58年度研究発表校の研究動向





点

## 筆神様

所在地—岡崎市箱柳町

筆の神様「如意玉権現」が祀られたのは文政年間（今から約百五十年ほど昔）神社より五十メートルほど下の高松庵々主隆法上人が建立したという。

筆神様を信じれば文説筆算上達まちがいなしとの夢のお告げがあったうえ、お祀りした上人自身も達筆であったことも手伝

つてか、参詣する人が多く、一時は筆の山ができたという。

しかし、昭和七年の大水害で参道が崩れて以後、荒れ放題になっていった由。ここへ遷座したのは昭和五十年。以後年々篤くお祀りされるようになり、今年には筆も売り出されたという。

筆神様の社は高さ七十七センチほどの石庭。真新しいしめ縄が張られ、使い古した筆が十本ほど供えられていた。

石の公園団地からさらに一キロ、伊賀川沿いに上る。民家の石垣に実る真っ赤なナンテンの実がとて見事である。

箱柳の鎮守、熊野神社は道からずいぶん高い所にある。百の石段を登り、二の鳥居からしばらく急坂を登ったあと、さらに

二十数段。眼前に鉄筋コンクリート、アルミサッシのモダンな本殿が現れる。筆神様は、本殿の左、岩盤の上に鎮座ましまし

● カット

大門小

杉原恵子

## この本を

- 勇者は語らず 城山三郎 新潮社 1,300円
- 日本的革命の哲学 山本七平 P H P 研究所 1,500円
- 人は獣に及ばず 中野好夫 みすず書房 1,900円
- パラドックスの世界 田村三郎 光文社 580円
- わが一期一会 井上 靖 毎日新聞社 980円
- 女らしさ物語 鈴木健二 小学館 880円
- 日本人の忘れもの 会田雄次 P H P 研究所 880円
- 役 者 仲代達也 講談社 1,800円
- クレヨンを塗った地蔵 森崎和江 北井一夫 角川書店 1,900円
- 地底への冒険 竹内 均他 リプロポート 1,200円

鬼がいるとか来るとかいつても、今の人は一笑に付してしまふ。しかし、小学校低学年の子にとって、鬼は現実的存在感をもっている。

「鬼は外、福は内。」と声張り上げて豆撒きするとき、変に気恥ずかしさを感じるの、浅はかな合理性だろう。不合理の知恵に遊ぶも一興といえよう。



「厚着追放」 暖房のきいた教室に着ぶくれた子供たち。寒気に膚を晒し鍛えるのは、冬なればこそできること。「耐寒」は時宜の教育。同時に、子供の心に過保護という厚着をさせていないか省みたい。親切すぎる配慮、恵まれた環境は心を軟弱にする。「耐寒」という教育は身体だけの問題ではない。

新鮮な空気を胸いっぱい吸って深呼吸をする。耐寒マラソンで走った後のさわやかさは、また、格別。

軽快でリズムミカルな子ども達の足音に励まされ、息を切らせながらも走りぬく肥満児達。とかく今の子らは根性が無いと言われる姿など、ここでは微塵も窺えないのは、あの完走の喜びであろう。

頭上からおおいかぶさってくるほどに育ったナスの丈、その中を半袖シャツで収穫作業をしていたのは、二十五歳の若き農業後継者市川幸雄さん。

「まだまだ一人前とは言えませんが、これからも真剣に施設園芸に取り組んでいきたいですね。」

土に生きる力強い言葉であった。